

# 福島大学 教職大学院案内

大学院教職実践研究科教職高度化専攻



## ふくしまの教育を支える ミドル・リーダーを育てる

福島のエデュケーション課題を認識し、新たなエデュケーションの探究により  
未来を創造する教員を養成する大学院



- ミドル・リーダー養成コース
- 授業デザインコース
- 特別支援教育コース



# 基本理念

## 地域課題及び教育課題に果敢に挑む イノベーション人材の養成

福島県教育委員会との連携を強め、社会的・地域的要請に応じていきます。



### ● 福島大学教職大学院の特徴

1

確かな課題意識と豊かな想像力と  
着実な実践力をもって  
**教育課題に挑みます**

教育を  
めぐる  
現状

グローバル化する社会の持続的な発展

誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現

教育デジタルトランスフォーメーション(DX) など

2

福島県の教育課題に応えるべく  
**福島の未来を創造する  
独自の教育を創出します**

福島の  
教育の  
在り方

「福島ならではの」教育の実現

「学びの変革」の推進

イノベーション人材の養成

3

理論と実践の往還を通して、  
これからの教員に求められる  
**資質能力を育成します**

ディプロマ・  
ポリシー

■ グローバルな視野とローカルな視点

■ 専門的知識・技能 ■ 論理的思考力・分析力・表現力

■ 学際性、俯瞰性、課題発見力 ■ 応用力、実践力、還元力

■ プレゼンテーション力、コミュニケーション力

■ コーディネート力、マネジメント力、課題解決力

### ● 理論と実践の往還

チーム学校を牽引する



「ミドル・リーダー」

学年・学校課題に対応する力

高度な教育実践力の修得



次の「ミドル・リーダー」

学校課題への意識を高める

学校での教育実践力の修得



次世代の「ミドル・リーダー」

学校課題への意識を高める



学校現場における課題と必要な理論をていねいにつなぎ、PDCAサイクルをベースとして、課題の発展的な解決を目指します。また、ミドル・リーダーとして、これからの福島における教育を支える「真に学び続ける教員」としての資質能力を育みます。

## 各コースの特徴

教職経験や自らの教員像と役割に合わせて、「ミドル・リーダー養成コース」、「授業デザインコース」、「特別支援教育コース」を選択します。

### ミドル・リーダー養成コース

### 学年・学校経営課題への対応力を磨く



#### ★ ミドル・リーダーを目指す方

教職経験概ね8年以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学年レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

### 授業デザインコース

### 基盤となる教育実践力を磨く



#### 次 次のミドル・リーダーを目指す方

教職経験3年以上の方

1~2校で教職経験があり、様々な実践課題が見え始めた方で、さらに高度な実践力または学校マネジメント力を身につけたい方

※教職経験概ね8年以上の方も選択できます。

#### 次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、多様な現職教員と交流することを通じて、教育実践の課題を総体として理解し、学校教員としての自覚を持ちたい方

### 特別支援教育コース

### 多様化に応える教育実践力を磨く



#### ★ ミドル・リーダーを目指す方

教職経験概ね8年以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学部レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

#### 次 次のミドル・リーダーを目指す方

教職経験3年以上の方

障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指し、学校マネジメント力または高度な実践力を身につけたい方

※教職経験概ね8年以上の方も選択できます。

#### 次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す方

# 教育課程

カリキュラムは、「大学院基盤科目」、「共通5領域」、「選択領域」、「プロジェクト研究領域」、「学校における実習領域」に分かれています。また、理論と実践の往還を進める場であるラウンドテーブルに年2回参加・実践報告します。

科目領域		コース	ミドル・リーダー養成コース	授業デザインコース	特別支援教育コース
大学院基盤科目		イノベーション・リテラシー			
理論	共通5領域 必修20単位	現代的な教育課題への基礎対応力を形成			
	選択領域 選択10単位	学校改革領域 学校マネジメント科目 学校改革科目	授業改善領域 教科横断型授業改善科目 各科授業改善科目	特別支援に関する理論と実践領域 特別支援に関する理論と実践科目	
理論と実践の往還		ラウンドテーブル			
実践	プロジェクト研究領域 必修4単位	学校課題対応プロジェクト研究    授業実践高度化プロジェクト研究    特別支援教育実践プロジェクト研究 実践の省察 → 課題の明確化 → 解決法探索 → 計画実践 → 分析評価 → 報告書作成 自らの課題を明確にして必要な理論・方法を学び方策を計画・実践して結果を分析・評価			
	学校における実習領域 必修10単位	学校課題対応実習 (中堅現職学生)    次世代 長期インターンシップⅠ・Ⅱ (学部新卒学生) 教職専門実習Ⅱ (中堅現職学生)    次 教職専門実習Ⅰ (若手現職学生) 学校支援実習Ⅱ (中堅現職学生)    次 学校支援実習Ⅰ (若手現職学生) 教育実践高度化実習 (若手現職学生)			

# 教職大学院での学びのイメージ

	1 年 生												2 年 生											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>共通5領域</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程編成実践研究</li> <li>授業デザインの理論と実際</li> <li>生徒指導の事例研究</li> <li>福島の学校と教育課題 I</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>教材開発と教育方法の実践と課題</li> <li>学校カウンセリングの事例研究</li> <li>学校・学級づくりの実践研究</li> <li>公教育の理念と教育改革</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と地域</li> <li>福島の学校と教育課題 II</li> </ul>											
<b>選択領域</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びで育成するための理論と実践</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科授業デザイン論</li> <li>生活科・総合的な学習の時間に関する授業デザイン論</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びで育成するための理論と実践 II</li> </ul>											
<b>プロジェクト</b>	教育実践高度化プロジェクト I <span>ラウンドテーブル</span>						教育実践高度化プロジェクト II <span>ラウンドテーブル</span>						教育実践高度化プロジェクト III <span>ラウンドテーブル</span>						教育実践高度化プロジェクト IV <span>ラウンドテーブル</span>					
<b>学校における実習</b>	カンファレンス 分散型モデル 事前指導・マッチング												カンファレンス 分散型モデル (学部新卒学生を除く)											

## ミドル・リーダー養成コースの実習

- ★ 教職専門実習 II**  
学校参観・教育委員会の訪問や学校でのジョブ・シャドーイングをおこないます。
- ★ 学校支援実習 II**  
授業・学校行事等に参画しチーム学校のあり方を検討します。  
学部新卒学生のメンターも務めます。
- ★ 学校課題対応実習**  
公開研究や校内研修の企画・運営に参加します。

	月	火	水	木	金
1	■	■	■	■	■
2	■	■	■	■	■
3	■	■	■	■	■
4	■	■	●	■	■
5	■	■	■	■	■

■ 理論 ■ 実践(実習等) ● カンファレンス

## 授業デザインコース(若手現職学生)の実習

- 次 教職専門実習 I**  
先進的な研究校を参観します。
- 次 学校支援実習 I**  
連携協力校の授業や学校行事等を支援します。
- 次 教育実践高度化実習**  
連携協力校で授業研究・提案授業等を実施します。

## 授業デザインコース(学部新卒学生)の実習

- 次世代 長期インターンシップ I・II**  
教員の仕事を総体として理解するとともに、実践から課題を見いだします。

## カンファレンス(週間・月間)への参加

現場での実習や支援を振り返って大学教員からアドバイスを受たり、学生や教員で事例検討をしたりします。



## ラウンドテーブルへの参加・報告

5~6名の小グループで報告し討論することで、教育現場での実習や支援を省察し、次の活動へと活かします。県内外からの参加者を募り、大規模に開催します。



# 教員紹介



**准教授 植田 啓嗣**

**専門** 教育学・比較教育学

**研究テーマ** 国際教育に関する研究、アジア(特にタイ)の教育

世界の教育改革や教育開発に関する授業を担当します。世界のことを学びながら、日本の教育の意義や課題について一緒に考えていきましょう。



**准教授 工藤 日南子**

**専門** 教育学・情報科教育

**研究テーマ** 情報の受信や発信／情報モラル/情報リテラシー

学習における効果的なICT活用 のあり方や、情報社会で求められる情報モラル・情報リテラシーの教育について、共に考えて いきたいと思ひます。



**特任教授 佐藤 栄治**

**専門** 社会科教育

**研究テーマ** 社会科授業の構想と実践

遊び心と真剣さを兼ねて、世界と未来につながる「社会的な見方・考え方」を育む学びを、一緒に考えていきましょう。



**特任教授 高橋 英子**

**専門** 社会教育学・教育社会学

**研究テーマ** 地域づくりと住民の主体形成

地域づくりや地域の課題解決に取り組む人々の実践と学びに関心があります。つながりを育む社会教育の可能性を一緒に考えていきましょう。



**特任教授 中野 真悟**

**専門** 道徳教育・生徒指導

**研究テーマ** 道徳科と各教科等を関連づけたカリキュラム研究

子どもたちが他者や集団、社会と関わりながらよりよく人生を生きていくために、教員は何ができるのかを一緒に考えていきましょう。



**准教授 平中 宏典**

**専門** 理科教育

**研究テーマ** ICTを活用した授業づくりとシステム構築／地域地質を活かした地学教育

教育学・学習科学の視点で授業を見つめ、ICTを用いた授業やシステム活用のより良いあり方をと共に考えていきましょう。



**特任教授 柳沼 哲**

**専門** 障害児病理

**研究テーマ** 特別支援教育、重複障害教育、教育的ニーズ

教育的ニーズは、子どもと環境の相互作用により生起し、質・量ともに変化します。考え方や価値観を吟味する機会にしませんか。



**特任教授 小川 尚子**

**専門** 体育科教育・学校経営

**研究テーマ** 体育科の授業デザイン／学校経営力

「身体活動を通じた学び」を基盤とした、子どもたち一人一人の資質・能力を最大限に伸ばす体育科の授業づくりについて、共に考えていきましょう。



**特任教授 小嶋山 宗浩**

**専門** 特別支援教育

**研究テーマ** 特別支援学校等における未来に向けた教育環境の整備の在り方について

障がいのある児童生徒等が、新しい時代に生きるための資質・能力を確実に身に付けるなど、それぞれの個性を生かした社会貢献ができるよう、実践を基にして研究を進めて行きます。



**准教授 志賀 匡行**

**専門** 学習指導・理科教育

**研究テーマ** 学習内容の理解を深めるための学習指導

教師が自らの指導力を最大限に発揮するためにはどうすればよいか、一人一人の「気づき」や「経験」をつなげ紐解いていきましょう。



**教授 高橋 純一**

**専門** 特別支援教育・認知心理学

**研究テーマ** 感覚・知覚・認知の「多様性」とその「理解」／幼児期・児童期のアファンタジア

障害の有無にかかわらず、子どもの行動には必ず要因があります。認知能力の観点から、より客観的な教育支援について考察します。



**教授 鳴川 哲也**

**専門** 理科教育・学校経営

**研究テーマ** 現職教師の能力の高度化／理科教育

予測困難な時代を生きる子供たちに学校教育は何を準備すべきなのか。教育の未来を力強く切り拓こうとしている皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。



**教授 宗形 潤子**

**専門** 教科教育学・教育実践学

**研究テーマ** 子どもの遊びに関する研究／生活科における砂遊び・総合的な学習の時間

現場の先生方と子どもの遊びや学び、授業について一緒に悩み、考え、よりよいものを目指しています。



**講師 和田 恵**

**専門** 発達障害学・発達心理学

**研究テーマ** 発達障害のある児童の社会的認知に関する研究

日常生活と地続きの教育の場において、障害のあるお子さんとどう関われるかを、心理・教育の観点から、一緒に考えていきましょう。



**准教授 神山 真由**

**専門** 教育行政学・学校経営論

**研究テーマ** 1970年代前後の教員不足に対する教員養成・採用・人事政策

より質の高い教育を行うための教員政策、教員の働き方や教員養成の在り方などについて一緒に考えていきましょう。



**教授 坂本 篤史**

**専門** 教育内容・方法論

**研究テーマ** 教師の学びを促す授業研究のあり方

授業実践の分析と教師の学びについて研究しています。授業の事実から共に学んでいきましょう。



**特任教授 高野 孝男**

**専門** 学校マネジメント

**研究テーマ** 特別活動を中核に据えた学級経営/カリキュラム・マネジメントと学校経営

学校、学級経営の充実のために、学校現場で抱える課題解決のための方策や校内研修の在り方、運営の仕方など、一緒に学び考えていきましょう。



**教授 谷 雅泰**

**専門** 教育学・日本教育史

**研究テーマ** 明治期地方教育行政史／デンマークの教育

公教育とはどうあるべきか、歴史や外国の事例から考えています。実践の基盤になる教育観を鍛えましょう。



**特任教授 橋本 忠広**

**専門** 国語科教育

**研究テーマ** 文学教育における「語り」理論を活用した指導方法

「言葉」によって他者と交流し、世界を認識し、自己を成長させることは、実はなかなか難しいことです。達成できる授業と一緒に考えましょう。



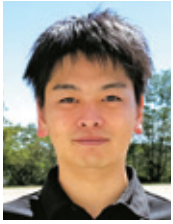
**教授 森本 明**

**専門** 数学科教育

**研究テーマ** 算数・数学の授業とカリキュラムの構成

思考する楽しさを伝えたい。その実現には実践をふまえた教材や授業の研究が必要かつ重要だと考えています。

## 在学院生の声



授業デザインコース 2年

山田 大悟

(福島大学人間発達文化学類卒 学部卒院生)

私が教職大学院に学部新卒で進学するよさを特に強く感じることは3つあります。1つ目は、学校経営や生徒指導、授業研究等の教職大学院ならではの深い講義を受けられ、学んだことを実習から理論と現場を比較してより学びを深めることができます。2つ目は、私の研究である小学校体育の自己調整学習について何度も授業や調査をさせていただけることです。3つ目は、県内を越え、他県の学校公開や勉強会に参加しやすいことです。自身の研究を深めたり、これからの学校教育について自身の知見を広げたりことができ、参加者や大学の先生ともお知り合いになることもできます。



授業デザインコース 2年

高久田 唯

(福島県立西会津高等学校籍 現職派遣院生)

私は、「生徒が意欲をもって取り組める国語科の授業の在り方を見たい」「教育現場で勤務する中で生じた問いについてさらに追究したい」との思いから、教職大学院へ進学しました。私が大学院で得られたものは多くありますが、特に印象深いのは「自己を相対化する視点」です。高等学校籍の私にとって、小・中学校、特別支援学校籍の院生の皆さんとの対話は、いつも多くの気づきに溢れています。また、連携協力校における実習では、現場で勤務していた時とは異なる角度から、自らの授業を振り返り、問い直すことができます。このような、大学院という恵まれた環境で学ぶことに、日々感謝しています。この2年間の貴重な学びを、今後の教育実践に生かしていきたいと思っています。



ミドル・リーダー養成コース 2年

原 悠太

(福島市立森合小学校籍 現職派遣院生)

研修主任や生徒指導主事を任された際、自分には経験以外に頼るものがないと気づき、教育や学校について学び直したいと考えるようになりました。これが教職大学院の門を叩いたきっかけです。大学院での学びを通して、これまでよりも多角的・俯瞰的に学校を捉えるようになりました。連携協力校では、目指す児童像の実現のために何ができるか、研修担当の先生方と具体策を探っています。この「理論と実践の往還」が、中堅教師として活躍するための土台を盤石なものへ変容させていると実感しています。修了後は現場に戻り、学びの成果を福島県の教育に還元していきます。どんな先生方に会えるのか、どんな子どもたちに会えるのか、そしてどんな「新たな自分」に会えるのか、今から楽しみです。



特別支援教育コース 2年

牧野 圭子

(福島県立郡山支援学校籍 現職派遣院生)

特別支援学校の教員として視野を広げ、柔軟で多様な視点をもつ教員を目指して進学しました。大学院の授業では、教育全体を見つめ直し、他校種の教員と教育観を共有できる点が魅力です。中堅教員としての役割や教師としての在り方について問い直し、自分自身と向き合う時間にもなります。特別支援教育コースでは、県内の各特別支援学校への訪問により、教育課程や施設環境への知見を深め、地域や子どもに応じた教育の視点を養います。また、実習での授業実践や教授・院生との省察を通じ、子どもとのかかわり方や学習環境などを丁寧に振り返り、授業を見る眼、子どもを観る眼も磨きます。この2年間で得られる多くの出会いと気づきを、専門性の向上と自身の成長につなげたいと考えています。

## 福島大学 教職大学院Q & A

Q1

今までの大学院修士課程との違いは何ですか？

大きな違いは、学校現場を通して高度な実践力を身につけることを目指していることです。

Q2

修士論文は書くのですか？

修士論文の提出は求めません。本研究科では、日頃の実践を理論的にみつけて省察した成果をまとめた実践報告書を作成します。

Q3

「学校における実習」はどの学校でやることになるのですか？

県北域内にある連携協力校(附属学校を含む)で実習を行います。

Q4

「プロジェクト研究」は、自分の希望する校種や教科等で取り組めるのでしょうか？

はい。自身が希望する校種、教科での実施が可能です。研究には連携協力校で取り組むこととなりますが、現職派遣院生は、原籍校での取組も可能です。

Q5

教職大学院の施設や設備等、学習環境はどのようになっていますか？

大学ではPCタブレット、プロジェクター等のICT環境が整備された共同スペースがあり、専用の机が貸与されます。もちろん学内の図書館等も利用可能です。

Q6

教職大学院に入学する前や在学中に教員採用試験に合格した場合、採用名簿登録期間を延長してもらえますか？

福島県教育委員会では申請により、在学期間(2年間)について採用名簿搭載期間の延長が可能です。手続き等は教育委員会にお問い合わせください。

## 取得できる学位・免許

教職修士(専門職)の学位が2年間の課程で取得できます。  
以下の専修免許状が取得できます。

幼稚園教諭専修免許状  
 小学校教諭専修免許状  
 中学校教諭専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)  
 高等学校教諭専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語  
 農業、工業、商業、水産、福祉)  
 特別支援学校教諭専修免許状 ※特別支援教育コースのみ  
 養護教諭専修免許状  
 栄養教諭専修免許状

## 募集概要

※内容は予定であり変更する場合があります

### 求める学生像(アドミッションポリシーから)

地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する「教員のミドル・リーダー」をめざす学生を求めます。

### 募集人数と選抜方法

詳細は、大学webサイト及び学生募集要項をご覧ください。

#### 募集人数 12名

**出願資格** 大学を卒業した者(卒業見込みの者)で、教員免許状(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護・栄養の普通免許状一種)を取得(見込みを含む)している方

#### 選抜方法

一般入試

**対象**：出願資格を有している方

**検査項目**：研究計画、成績証明書、学習履歴レポート、小論文および面接

現職教員  
特別入試

**対象**：出願資格を有し、出願時まで3年以上の教職経験及び出願年度内に勤務実績のある方

**検査項目**：研究計画、実践記録レポートおよび面接

福島大学生  
特別  
入試

**対象**：出願資格を有し、以下に該当する方

- 福島大学を卒業見込みである
- 卒業研究指導教員による推薦を得ている
- 実践研究の課題が明確で卒業後の入学を確約できる

**検査項目**：研究計画、成績証明書、学習履歴レポート、推薦書および面接

### 学 費

入学金 282,000円

授業料 535,800円(年額)

※福島県教育委員会派遣の方は入学金の半額を免除します。

令和6年度から奨学金の返還免除制度が始まっています。教職大学院を修了した翌年度に正規教員となった方は、第一種奨学金の貸与の返還が免除されます。

お問い合わせ



人間発達文化学類 支援室

〒960-1296 福島市金谷川1番地

TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181